

詩篇105篇

① 賛美の呼びかけ

- 1 主に感謝して、御名を呼び求めよ。そのみわざを国々の民の中に知らせよ。
- 2 主に歌え。主にほめ歌を歌え。そのすべての奇しいみわざに思いを潜めよ。
- 3 主の聖なる名を誇りとせよ。主を慕い求める者の心を喜ばせよ。
- 4 主とその御力を尋ね求めよ。絶えず御顔を慕い求めよ。
- 5 主が行われた奇しいみわざを思い起こせ。その奇蹟と御口のさばきとを。
- 6 主のしもべアブラハムのすえよ。主に選ばれた者、ヤコブの子らよ。

② アブラハム契約の恵み

- 7 この方こそ、われらの神、主。そのさばきは全地にわたる。
- 8 主は、ご自分の契約をとこしえに覚えておられる。お命じになったみことばは千代にも及ぶ。
- 9 その契約はアブラハムと結んだもの、イサクへの誓い。
- 10 主はヤコブのためにそれをおきてとして立て、イスラエルに対する永遠の契約とされた。
- 11 そのとき主は仰せられた。「わたしはあなたがたの相続地としてあなたに、カナンの地を与える。」
- 12 そのころ彼らの数は少なかった。まことにわずかで、そのうえそこでは、寄留の他国人であった。
- 13 彼らは、国から国へ、一つの王国から他の民へと渡り歩いた。
- 14 しかし主は、だれにも彼らをしいたげさせず、かえって、彼らのために王たちを責められた。
- 15 「わたしの油そそがれた者たちに触れるな。わたしの預言者たちに危害を加えるな。」

③ ヨセフ派遣の恵み

- 16 こうして主はききんを地の上に招き、パンのための棒をことごとく折られた。
- 17 主はひとりの人を彼らにさがけて送られた。ヨセフが奴隷に売られたのだ。
- 18 彼らは足かせで、ヨセフの足を悩まし、ヨセフは鉄のかせの中に入った。
- 19 彼のことがそのとおりになる時まで、主のことばは彼をためした。
- 20 王は人をやってヨセフを解放し、国々の民の支配者が、彼を自由にした。
- 21 王はヨセフを自分の家のかしらとし、自分の全財産の支配者とした。
- 22 これはヨセフが意のままに王の高官を縛り、王の長老たちに知恵を与えるためだった。

④ 出エジプトの恵み

- 23 イスラエルもエジプトに行き、ヤコブはハムの地に寄留した。
- 24 主はその民を大いにふやし、彼らの敵よりも強くされた。
- 25 主は人々の心を変えて、御民を憎ませ、彼らに主のしもべたちを、ずるくあしらわせた。
- 26 主は、そのしもべモーセと、主が選んだアロンを遣わされた。
- 27 彼らは人々の間で、主の数々のしるしを行い、ハムの地で、もろもろの奇蹟を行った。
- 28 主はやみを送って、暗くされた。彼らは主のことばに逆らわなかった。
- 29 主は人々の水を血に変わらせ、彼らの魚を死なせた。

- 30 彼らの地に、かえるが群がった。王族たちの奥の間にまで。
 31 主が命じられると、あぶの群れが来た。ぶよが彼らの国中に入った。
 32 主は雨にかえて雹を彼らに降らせ、燃える火を彼らの地に下された。
 33 主は彼らのぶどうの木と、いちじくの木を打ち、彼らの国の木を砕かれた。
 34 主が命じられると、いなごが来た。若いいなごで、数知れず、
 35 それが彼らの国の青物を食い尽くし、彼らの地の果実を食い尽くした。
 36 主は彼らの国の初子をことごとく打たれた。彼らのすべての力の初めを。
 37 主は銀と金とを持たせて御民を連れ出された。その部族の中でよろける者はひとりもなかった。
 38 エジプトは彼らが出たときに喜んだ。エジプトに彼らへの恐れが生じたからだ。

⑤ 荒野での恵み

- 39 主は、雲を広げて仕切りの幕とし、夜には火を与えて照らされた。
 40 民が願い求めると、主はうずらをもたらし、また、天からのパンで彼らを満ち足らわせた。
 41 主が岩を開かれると、水がほとばしり出た。水は砂漠を川となって流れた。
 42 これは主が、そのしもべアブラハムへの聖なることばを、覚えておられたからである。

⑥ カナンへの帰還の恵み

- 43 主は御民を喜びのうちに連れ出された。その選ばれた民を喜びの叫びのうちに。
 44 主は、彼らに国々の地を与えられた。彼らが国々の民の労苦の実を自分の所有とするために。
 45 これは、彼らが主のおきてを守り、そのみおしえを守るためである。ハレルヤ。

詩篇 105 篇は「主に感謝せよ」で始まる 4 つの詩（105 篇、107 篇、118 篇、136 篇）の第一で、「ホードゥー（הודו）『感謝せよ』詩篇」と呼ばれることもあります。45 節までである中長篇ですが、その大半が「アブラハム契約」から「カナンへの帰還」の歴史に現れた神の恵みを綴っています。「歴史回想詩篇」と呼んでもいいでしょう。その歴史の詳細は創世記からヨシュア記までをお読みいただくとして、ここでは各出来事のポイントを探ってみます。ただ、これら一連の出来事は一続きで描かれているため、分け方には別の可能性もあるということを加えさせていただきます。

① 賛美の呼びかけ（1～6 節）

ここではすべての節に「主」の名が出てきます。この契約的な名前は、「アブラハムの子孫」「ヤコブの子ら」（6 節）との特別な関係、彼らと永遠に共にましますことを表しています。彼らに第一に求められているのは「感謝」です。「すべての奇しき業」（2 節）を思い出しながら、そこに現れた恵みに対して感謝をささげるのです。まずここで重要なことは、賛美する人自身は、救済の出来事を聞いて知っているものの、すべてを経験したわけではないということです。それでも、民の一員として、歴史を超えて主が何をしてくださったかを考え、自分のこととしてそれを受け留めようとしているのです。

② アブラハム契約の恵み（7～15節）

小見出しを「アブラハム契約」としましたが、ここではアブラハムーイサクーヤコブと三代に亘って受け継がれた契約の継続性が強調されています。神は、アブラハムを通して全世界を祝福するという約束を、もちろん一代で終わらせるつもりなどありませんでした。最初は一人に対する約束でしたが、家族となり民族となるにつれ、「神と民」の関係へと発展していきます。それも「永遠の契約」（10節）と言われるところに、歴史の終わりまで途切れることのない人類全体に対する神の愛が示されているでしょう。とはいえ、当初は「彼らの数は少なかった。まことにわずかで、そのうえそこでは、寄留の他国人であった」のです。吹けば飛ぶような神の民。主の守りがなくては生き残ることすらできませんでした。

③ ヨセフ派遣の恵み（16～22節）

創世記の前半では、家庭内における人間臭い愛憎の入り乱れた歴史が綴られています。ヤコブの時代には、一夫多妻による弊害が現れ始め、異母兄弟が憎み合い人身売買まで行なうという黒歴史が刻まれました。エジプトに売り飛ばされたヨセフは、捨てられ、誤解され、投獄され、忘れられるという、悲劇的な人生を歩みます。しかし、そのようなヨセフと共にいてくださった主は、彼の苦悩を通してイスラエルを救うという計画を立てておられたのです。ヨセフはついにエジプトの宰相に抜擢され、イスラエルをはじめとする多くの民の命を飢饉より救いました。

④ 出エジプトの恵み（23～38節）

カナンので食糧危機に陥ったイスラエルは一家挙げてエジプトに移住しました。彼らはその地で繁栄しましたが、待ち受けていたのはエジプトでの長期に亘る奴隷生活です。主の救いの御業はこの時にこそ現れなければなりません。モーセとアロンが派遣され、救出計画が実行に移されていきました。主は敢えてエジプト王の心を頑なにし、そのことをも用いて様々な奇跡を行ない、ご自身の手でイスラエルをお救いになりました。そして、かの地を去るときには、「主は銀と金とを持たせて御民を連れ出された。その部族の中でよろける者はひとりもなかった。エジプトは彼らが出たときに喜んだ。エジプトに彼らへの恐れが生じたからだ」（37-38節）と、その後の生活に必要な物資もお金も持たせ、微に入り細を穿つような配慮をもって彼らを養われたことが強調されています。

⑤ 荒野での恵み（39～42節）

エジプトを出た後の荒野での生活でも、主は火の柱と雲の柱とをもって彼らを守り導き（39節）、うずらやマナ、水でもって肉体の必要を満たされました（40-41節）。しかし、42節で「これは主が、そのしもべアブラハムへの聖なることばを、覚えておられたからである」と、アブラハム契約がわざわざ思い出されているところに、民の不従順が如何に神を怒らせ、その契約が破綻になるほどの危機を身に招いていたかが暗示されています。主は意志を持って契約を思い起こし、「アブラハムに語った誓いを守り通そう」と自分に言い聞かせる必要さえあったのです。神ご自身の中での葛藤、忍耐が如何ばかりであったかを、読者はよく読み取らなくてはなりません。約束を守り通すということは「無償」ではなく、主の心の苦しみを伴うものだったのです。

⑥ カナンへの帰還の恵み

幾度も反逆を重ねた民でありましたが、最終的にはカナンの地へと導き入れられました。民の不従順に対して、神の恵みが勝利したのです。民の側には誇れるものは一つもありませんでしたが、神がアブラハムに誓われたことばが最後まで果たされたことが強調されています。そのゆえにこそ、本篇は「ハレルヤ」(45節)と締め括られるのです。

さて、以上のように、ただつらつらと並べられたかのように見えるイスラエル史を概観してまいりましたが、私たちはそれをただ読むだけで終わってはなりません。私たちの人生も同様の神の恵みが先行しているということを思い出したいのです。私たちはイスラエルのミニチュアであり、残念ながら主の御前に不従順な生き方を積み重ねて生きている存在です。しかし、それでも主の約束は変わることがなく、私たちを「カナンの地」に象徴される神の国へと導き入れてくださるのです。開き直すことなく、何度でも悔い改め、主の恵みにすがり続け、救いの道を全うしたいと思います。もちろん、それを成し遂げてくださるのは、憐み深い主ご自身であり、私たちの内に住んでくださっている聖霊であります。

予告：

次回扱う 106 篇は 105 篇とペアの関係にあります。イスラエルの不従順の歴史を徹底的に暴く内容になっています。